

---

**題材[紅の,海岸,よろめく,また会える]擬人化を取り入れてやってみよう！**

木戸・山茶花

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

題材「紅の海岸 よろめく、また会える」擬人化を取り入れてやってみよう！

### 【Nコード】

N8827Y

### 【作者名】

木戸・山茶花

### 【あらすじ】

とある「彼」のお話。

紅の色した彼が思うに、海岸というのは実に居心地の悪い場所である。

陽射しはきついし、砂は熱い。かと思えば夜は冷えるし、砂が冷たい。

寄せては返す波のお陰で、体もよるめく。あっちへこっちへ、頭がいたり来たりで気持ちも悪い。

彼に手足があるならば、すぐさま退散するところなのだが、あいにくとどちらもち合わせていない。お陰で、彼は波打ち際から動けない。

だれぞ助けしてくれないかと思うのだが、カモメもカニも、ワカメですらも、彼に手を貸してはくれなかった。

どうしたものかと考え始めて早三日。助けを求めるのにも飽きてきた。

今日も今日とて、陽射しが辛い。彼の上半身は陽射しに焼かれつつ、波に洗われつつで落ち着かない。下半身は砂に埋まったままなので動きようもない。

いつそ波が遠くにでも運んでくれれば事情は変わるのだろうか。悪くない考えだ。大海原に船出すれば、少なくともこの環境からは脱出できる。

が、波は彼の気持ちを知ってか知らずか、砂と水の狭間で彼をもてあそぶだけだった。波もどうやら、彼を助けるつもりがないらしい。

彼をここに放り投げた人間は、とうの昔にどこかへ行ってしまった。また会えるとは思っていない。

闇の中から救い出された時は感謝したものだが、こうなってしまうと、その感謝の念もどこぞへと消えてしまった。

周りでは、人間たちがはしゃいでいる。夏の海辺は、彼らの遊び

場として人気が高いらしい。ゆえに彼と、彼の仲間の需要も多いのだが、せめて納めるべきところに納めてはくれまいか。

用事が済んだからハイサヨウナラ、とは、無情にも程があるう。この切なさ、分かつてはくれまいか。

嘆くばかりだったそんな彼を救ってくれたのは、とつても小さな手だった。

「ママ、これー」

そういつて取り上げてくれた手は幼く、両手でもって、やっと彼を支えられるくらいだ。

塩水のたまった腹が、ちやぶちやぶと鳴っている。それに合わせ、彼はアリガトウと大いに伝えたかったのだが、生憎と彼の言葉は幼い手には通じなかった。

逆さまに振られ、塩水を吐き出すと、やっと清々しい気分になる。できればこのまま、と思つてしていると、今度は大きな手に軽々と持ち上げられてしまった。

「ターくん、危ないわよ」

そう言う大きな手は、彼を波から大きく引き剥がしてくれた。

さらには、

「ゴミはゴミ箱にね」

といつて、ついに彼を望む場所へと連れていってくれたのである。捨てる神あれば拾う神あるとは人間の言葉だったか。三日経つて、やっと彼は望みの場所へと放り込まれた。

仲間達が、再会を祝ってくれる。ありがとう、ありがとう。やっと君達に合流できた。

海岸に落ちている空き缶を見つけたらゴミ箱にいれてやろう。そうすれば、こんな風に喜ばれるかもしれない。彼らに。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n8827y/>

---

題材[紅の、海岸、よろめく、また会える]擬人化を取り入れてやってみよう！

2011年11月26日16時47分発行